

日本人の魂が入った 「日本刀」作刀技術の継承

桔梗隼光鍛刀場

基本データ 平成12年、岡山の横井崇光師に入門し、腕を磨く。京都にて独立した後、平成22年に故郷の相生に工房を開き、日本刀製作を続けている。小刀づくり体験や見学も受け付けている。（要予約）

連絡先 住所：相生市矢野町瓜生羅漢口28 羅漢の里
TEL：090-8358-4748
<https://www.hayamitsu.com>



桔梗光史（隼光）さん

要点

- 武士の時代が終わった現代も、相生の地で日本刀をつくり続ける
- 刀を作る工程「鍛錬」は、日本人の心を鍛えてきた古からの技術
- 千草鉄で短刀を作る試みや海外観光客向けの体験教室も行う

— 現代の日本刀の魅力とは

武士の時代が終わって150年以上が経ったが、現代にも日本刀に魂を入れ続ける刀鍛冶が相生にいる。近年ではアニメ「鬼滅の刃」が世界的に人気を集めているが、その中でも登場するのが日本刀だ。日本刀はその魅力に取りつかれる人も多く、また工芸品として世界的な評価も高い。

— 具体的な活動と今後の展望は

作刀は原料の玉鋼を打ち伸ばすことから始まるが、刀にまで仕上がるには気の遠くなるような工程がある。炭で鉄を1300℃まで熱し、叩きのばし、鍛える…火花が飛び散り、激しくも妥協は許されない工程を「鍛錬」という。日本人の心を鍛えてきた古からの技術だ。またその作刀工程から生まれた言葉は多い。西播磨の最北、宍粟市千種町ではかつて「千草鉄」が生産されていた。千種中学校の生徒が学習で生成した千草鉄で短刀を作る試みも成した。海外からの観光客にも作刀体験は人気だ。技術の継承なくしては、古代から受け継がれてきた日本人の魂が現在に新たに生まれることはない。



鍛刀場は、自然豊かな羅漢の里にある



展示されている作品の一つ

感想

「鍛錬」の様子を間近で見学させていただきましたが、火の粉を散らしながら刀を作る姿は、「真剣」そのもので圧倒されました。展示されている作品の美しさにも心惹かれました。